

日本脳神経超音波と栓子検出学会 認定脳神経超音波検査士
改訂版資格申請用症例報告書(記載例) ①

日本脳神経超音波学会資格認定委員会御中

2011 年 11 月 20 日 (西暦)

症例報告書 (①～⑦) を提出します.

申請者(自署): 山田 太郎



上記の者が、提出した超音波検査症例報告書に関して相違ないことを証する.

2011 年 11 月 11 日 (西暦)

施設名: 脳神経超音波病院

職 名: ☒ 医師 ☐ 臨床検査技師 ☐ 診療放射線技師 ☐ 看護師 ☐ 准看護師

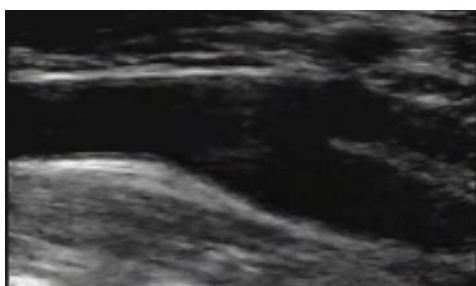
証明者(自署): 川上 次郎



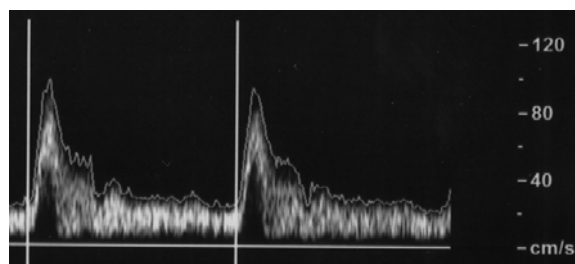
頸部超音波検査

(1) 一侧の頸動脈分岐部の B モード画像 (総頸動脈と内頸動脈を連続して描出して下さい)。(2) 一侧総頸動脈血流速度波形。(3) 一侧椎骨動脈の B モード画像。(4) 一侧椎骨動脈血流速度波形。(対象者は誰でも可。個人情報 that 特定できないよう配慮して下さい。下記スペースに収まるようトリミングして下さい。)

(1)



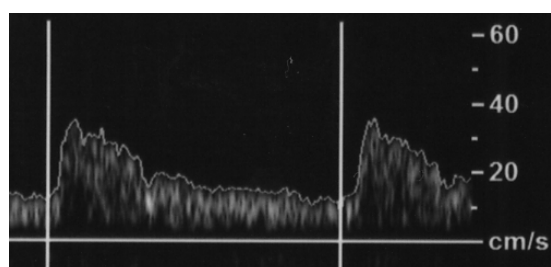
(2)



(3)



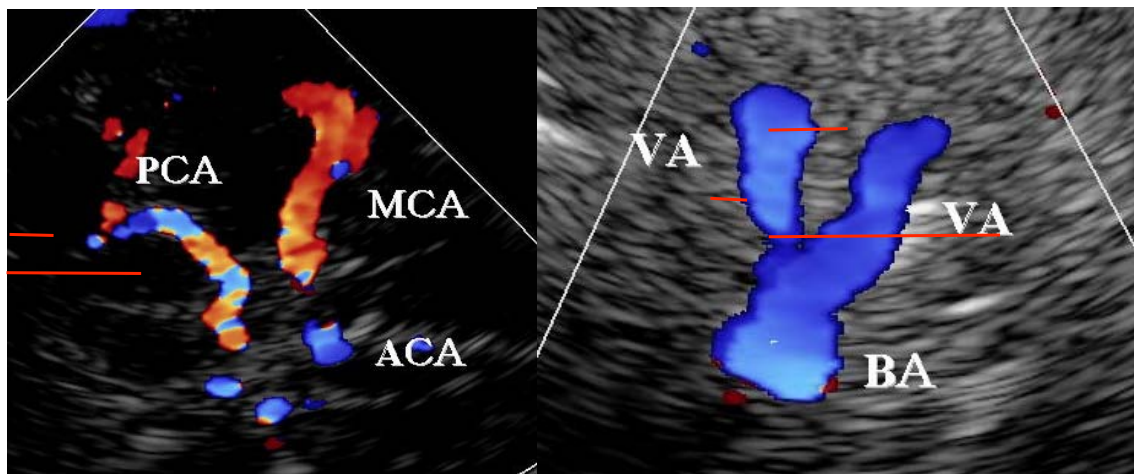
(4)



日本脳神経超音波と栓子検出学会 認定脳神経超音波検査士
改訂版資格申請用症例報告書(記載例) ②

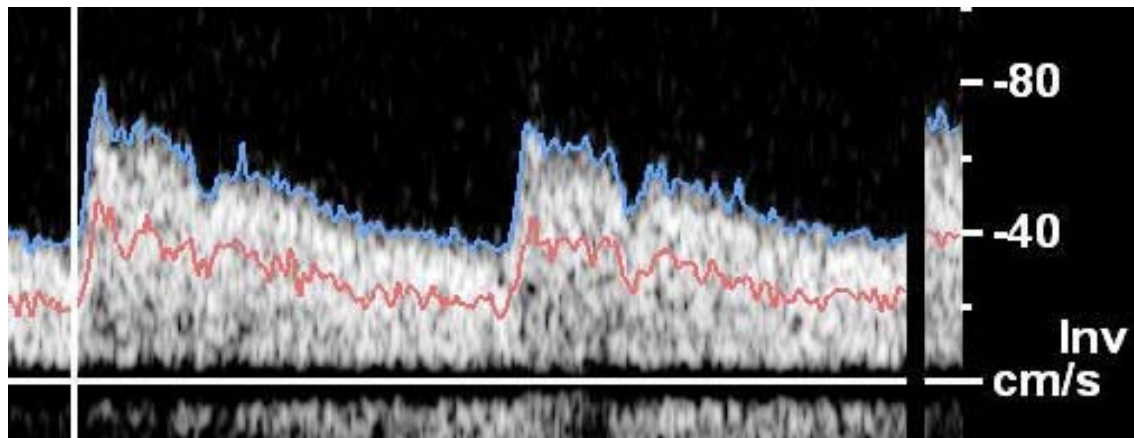
経頭蓋超音波検査

左右どちらかの中大脳動脈、前大脳動脈、後大脳動脈、椎骨動脈、および脳底動脈のカラーフロー画像を貼付して下さい。一枚の写真に複数の血管を描出されてもけっこうです。各写真の下に対象血管名を明記して下さい。左右どちらかの中大脳動脈血流速度波形の写真を貼付して下さい。(対象者は誰でも可。個人情報 that 特定できないよう配慮して下さい。下記スペースに収まるようトリミングして下さい。)



MCA: 右中大脳動脈
PCA: 右後大脳動脈
ACA: 右前大脳動脈

VA: 左が右椎骨動脈、右が左椎骨動脈
BA: 脳底動脈



右中大脳動脈血流速度波形

日本脳神経超音波と栓子検出学会 認定脳神経超音波検査士 改訂版資格申請用症例報告書

③以降の書き方

記載に際して注意点を以下に記します。このページは送付する必要はありません。

(1) リスクは該当項目を○で囲み、記入項目を記載。

(2) 頸部超音波検査か経頭蓋超音波検査かを○で選択。頸部超音波検査の報告には、頸動脈もしくは椎骨動脈の高度狭窄や閉塞例を、または経頭蓋超音波検査の報告には、異常所見を呈するものを少なくとも 5 例以上含め詳記すること。

※○印がずれていないか、ご提出前に再度、印刷した書類をご確認下さい。

(3) 頸動脈の場合、特異的な所見として、頸動脈閉塞（総頸動脈、内頸動脈起始部、遠位部を明記）の有無、狭窄度（面積、ECST、NASCET のいずれかの値を明記。NASCET は PSV からの推定でも可）、プラークの性状などを記載。

（参考）狭窄率を最大 PSV で推定する方法：最大 PSV=200-230cm/s は推定で NASCET70% 相当、125-130 cm/s は推定で NASCET50%相当として、推定で NASCET70%以上、70-50%、50%未満と分類する。椎骨動脈閉塞が疑われる場合は、閉塞部位（起始部、後下小脳動脈分岐前、分岐後、もしくは後下小脳動脈止まり）を記す。正常の場合は左右総頸動脈の max IMT のみ記入。

(4) 経頭蓋超音波検査の場合は閉塞や狭窄（最高流速を併記）などの所見を記し、正常の場合は、任意の一動脈の収縮期、拡張末期、平均の血流速度を動脈名とともに記す。

<記載例>

(1) 狭窄診断：面積 70%、ECST55%、NASCET80%、推定で NASCET70%以上（理由：最大 PSV=210cm/s）

(2) 閉塞診断：

・ CCA 内または ICA 起始部または VA 起始部閉塞（理由：CFI または PD でも内腔の血流シグナルが検出できない）

・ ICA 遠位部閉塞疑い（理由：ICA 入口部の波形が to-and-fro 型、CCA (EDV) 比=4.3）

・ VA PICA 前閉塞疑い（理由：VA の EDV=0cm/s）、PICA 後閉塞疑い（理由：平均流速 14cm/s、左右比 1.6、血管径比 1.2）、PICA-end 疑い（理由：平均流速 8cm/s、左右比 2.0、血管径比 1.8）

日本脳神経超音波と栓子検出学会 認定脳神経超音波検査士 改訂版資格申請用症例報告書(記載例) ③

症例1 年齢70歳、(男/女)(頸部、経頭蓋)

高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙、虚血性心疾患、動脈解離、心疾患()、脈管疾患()

特異的な所見：右内頸動脈起始部 ECST70%狭窄

症例2 年齢76歳、(男/女)(頸部、経頭蓋)

高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙、虚血性心疾患、動脈解離、心疾患()、脈管疾患(肺塞栓)

特異的な所見：左内頸動脈閉塞 (CFI で内腔の血流シグナルが検出できない)

症例3 年齢55歳、(男/女)(頸部、経頭蓋)

高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙、虚血性心疾患、動脈解離、心疾患(心房細動)、脈管疾患(右下肢動脈塞栓)

特異的な所見：IMT 右 0.7mm、左 0.6mm

症例4 年齢82歳、(男/女)(頸部、経頭蓋)

高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙、虚血性心疾患、動脈解離、心疾患()、脈管疾患()

特異的な所見：左内頸動脈 面積50%狭窄、右内頸動脈 面積60%狭窄

症例5 年齢49歳、(男/女)(頸部、経頭蓋)

高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙、虚血性心疾患、動脈解離、心疾患()、脈管疾患()

特異的な所見：右内頸動脈起始部に厚さ2.2mmのプラーク

症例6 年齢72歳、(男/女)(頸部、経頭蓋)

高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙、虚血性心疾患、動脈解離、心疾患(発作性心室細動)、脈管疾患(大動脈炎)

特異的な所見：右中大脳動脈閉塞 (CFI で内腔の血流シグナルが検出できない、後大脳動脈血流速度は検出可)

症例7 年齢65歳、(男/女)(頸部、経頭蓋)

高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙、虚血性心疾患、動脈解離、心疾患(僧帽弁狭窄)、脈管疾患()

特異的な所見：左中大脳動脈狭窄 (最大PSVは300cm/sec)

症例8 年齢55歳、(男/女)(頸部、経頭蓋)

高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙、虚血性心疾患、動脈解離、心疾患()、脈管疾患()

特異的な所見：右中大脳動脈 160/60/110 cm/sec (収縮期/拡張期/平均)

症例9 年齢84歳、(男/女)(頸部、経頭蓋)

高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙、虚血性心疾患、動脈解離、心疾患()、脈管疾患()

特異的な所見：右椎骨動脈 PICA 前閉塞 (理由：VA の EDV=0cm/sec)

症例10 年齢49歳、(男/女)(頸部、経頭蓋)

高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙、虚血性心疾患、動脈解離、心疾患()、脈管疾患()

特異的な所見：左内頸動脈 推定でNASCET70%以上狭窄 (理由 最大PSV=250cm/sec)